

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年10月27日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31120
政策名(章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当部	経済部
基本施策名(節名)	第1節 活力ある産業の振興	評価担当課	産業振興課
施策名	新たな成長産業の創造	課長名	下山啓二

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

新たな成長産業を創出するため、起業家の発掘や創業・新分野進出、産学・企業間連携などの促進を図る。
 基金の活用による青年起業家の発掘・育成、創業期のベンチャー企業や新分野進出を目指す中小企業への支援、産学や企業間の分野や業種を越えた広域的な連携への支援、中小企業の研究開発への支援をさがみはら産業創造センターなどとの連携により実施する。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		59,649	さがみはら産業創造センター補助金 91,939千円の減
人件費		7,567	
市民一人あたりの事業費	177	101	
合計	109,034	67,216	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

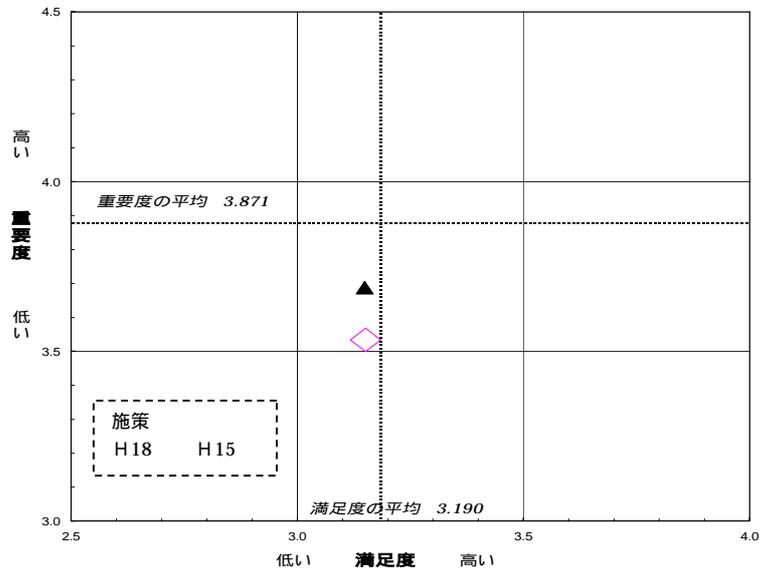
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	青年起業家育成事業、コミュニティビジネス推進事業、図書館ビジネス支援事業を通じて起業した件数	起業件数 各年度において"実績値/目標値"を達成率とする	2(件)	H16
指標2	新分野進出支援事業を通じて新分野での事業化に着手した件数	事業化着手件数 各年度において"実績値/目標値"を達成率とする	10(件)	H16
指標3	産学連携支援事業、広域連携支援事業、研究開発支援事業によるマッチング件数	マッチング件数 各年度において"実績値/目標値"を達成率とする	10(件)	H16
指標4	研究開発支援事業を通じて新製品・新技術の事業化に着手した件数	事業化着手件数 各年度において"実績値/目標値"を達成率とする	3(件)	H16
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	4	19	7	21	10	目標値を毎年1~2件ずつ段階的に高め、最終年度には10件(3事業を通じ年間に寄せられる起業プランの約1割)とする。
達成率	100%					
指標2	11	19	13	21	15	基準年度の1.5倍増となる15件を最終年度の目標値とし、毎年1件ずつ段階的に目標値を高めていく。
達成率	109.1%					
指標3	15	19	25	21	35	基準年度の3.5倍増となる35件を最終年度の目標値とし、毎年5件ずつ段階的に目標値を高めていく。
達成率	100%					
指標4	4	19	6	21	8	基準年度の3件から毎年1件ずつ段階的に目標値を高め、最終年度には8件(採択案件全ての事業化着手)とする。
達成率	100%					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.151で51施策の中で29番目。
 重要度は3.534で45番目である。
 改善要望度は - 0.2105で39番目である。
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は70歳以上でもっとも高く、30歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位に大きな違いはみられないが、重要度は下がっている。
 満足度の順位では、30歳代で前回調査より大幅に上がり、60歳代で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より上がり、40歳代で大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4	社会・経済構造の変化や産業の担い手が多様化する中において、創業・新分野進出や産学・企業間連携の促進を通じ新たな成長産業を創出していくことは、市内産業の活性化とともに、雇用や税収効果をもたらす有効性の高い施策となっている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4	事業成果の拡大につながる構成事務事業のスクラップ&ビルドや事業内容の見直し、また、投入コストの減少につながるさがみはら産業創造センターの活用など効率性の向上に努めており、費用対効果の高い施策となっている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	1	施策の満足度は3.151で51施策の中で29番目、重要度は3.534で45番目となっているが、新たな成長産業の創造は、市内企業の大部分を占める中小企業の持続的な発展に寄与するものであり、ひいては雇用の創出、市民生活を財政面で支える大きな力になるものであることから、施策を更に充実をさせるとともに、その重要性を市民に周知していく必要がある。	
合計		9	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	今後も社会・経済状況を適確に捉え、効果的な事業を打ち出す必要がある。また、実績を伸ばすため、各事業の周知にも工夫を凝らす必要がある。
解決策	構成事務事業を単体として捉えず、各事業を通じて経営者や専門家の意見を幅広く収集し、企業のニーズにマッチした事業の企画立案及び実施に努める。また、事業の周知や実施における効果・効率を高めるため、支援機関、工業団体、大学などとのネットワークを強化する。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標の水準が甘く、高評価となっているが、新規事業の積極的な導入により施策の目的に対する事業効果は高められている。 今後は、社会経済状況の的確な把握に基づく、積極的なスクラップアンドビルドにより、効果的な事業実施に努められたい。	2次評価 B
---	-----------

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

